

# 第102回 ロシアの発展②

## 1 エカチェリーナ2世とその時代

- ・1762年、ピョートル3世がクーデタにより廃位され、殺された。  
→ピョートル3世の皇后であるエカチェリーナが皇帝となった。



エカチェリーナ2世  
実はロシア人ではなく、ドイツ人である。ピョートル3世の妃としてロシアにやってきた。愛人が数百人いたらしい。

- ◆ ( ) (在位 1762~1796年)
- ・ピョートル1世の政策を受け継ぎ、ヨーロッパの技術を導入することでロシアの発展と近代化をはかった。
- ・啓蒙思想家のディドロなどと親交があり、啓蒙専制君主のひとりとされる。  
→しかし1773年に ( ) が起きた後は、農民の力を落とし(農奴制強化)、貴族の力を利用して中央集権化しようとした。



ピョートル3世

第100回でも登場。七年戦争では、突如の裏切りでフリードリヒ大王を助けた。知的障害があったとされる。



プガチョフ

ロシアの貧農で、大反乱の指導者となったが処刑された。ステンカ=ラージンと混ざらないように。



エルミターージュ美術館

ペテルブルクにある美術館で、規模は世界最大級。エカチェリーナ2世がコレクションを、ここに置いていたのが始まりらしい。

### <エカチェリーナ2世の対外政策>

- ・ロシアの領土をさらに拡大しようとし、( ) と戦った。  
→1774年、キュチュク=カイナルジャ条約により黒海の支配権を奪った。  
→1783年、クリム=ハン国を併合し、( ) を支配下に置いた。
- ・1780年、アメリカ独立戦争では、武装中立同盟を提唱してイギリスを孤立させた。
- ・東方ではシベリアを超えて( ) まで進出した。  
→1792年、日本にも( ) を派遣して通商を求めたが、失敗した。



ラクスマン

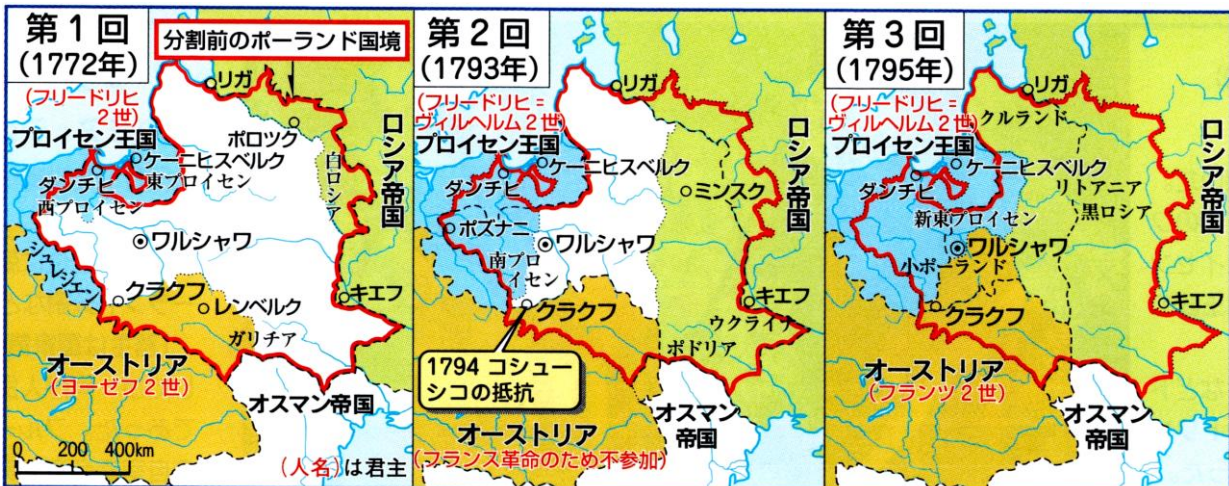
日本の根室に来航し、大黒屋光太夫を送り届け、江戸幕府と交渉を持とうとした。時の老中は松平定信であった。



大黒屋光太夫 映画『おろしや国酔夢譚』



伊勢から江戸に向かう途中、嵐でロシアに流された。ペテルブルクでエカチェリーナ2世と会い、9年後にようやく帰国できた。興味のある人は、映画『おろしや国酔夢譚』を観よう。



## 2 3度のポーランド分割

- ・ロシアの西にあるポーランドでは、1572年に（ ）が断絶し、（ ）となった。  
→シュラフタと呼ばれる貴族の内紛が続き、不安定な政情が続いていた。

### <第1回ポーランド分割>

- ・1772年、（ ）・（ ）・（ ）の3国が、ポーランドの領土を分割した。

### <第2回ポーランド分割>

- ・1793年、ロシア・プロイセンの2国によって、ポーランド領が分割された。  
※オーストリアはフランス革命の混乱のために加わらなかった。  
→（ ）が抵抗運動を指揮したが、成功しなかった。

### <第3回ポーランド分割>

- ・1795年、ロシア・プロイセン・オーストリアの3国によって分割された。  
→ついにポーランド王国は消滅した。



エカチェリーナ2世



フリードリヒ大王



ヨーゼフ2世

18世紀後半、ポーランド分割を行ったこの3人が同時代の人だったことを覚えておこう。オーストリアではマリア=テレジアがまだ存命だったが、息子のヨーゼフ2世がすでに即位していた。



ポーランドの英雄コシュチウシコ

コシチューシコも。アメリカ独立戦争に参加したことで知られる。抵抗運動は成功しなかったが、現在もポーランドの英雄。

- ◆（ ）（在位 1801～1825年）
- ・フランスの（ ）と戦い、アウステルリッツの戦いでは敗れた。  
→1812年、ナポレオンのロシア遠征を撃退した。
- ・1814年に始まる（ ）に参加し、神聖同盟を提唱した。

